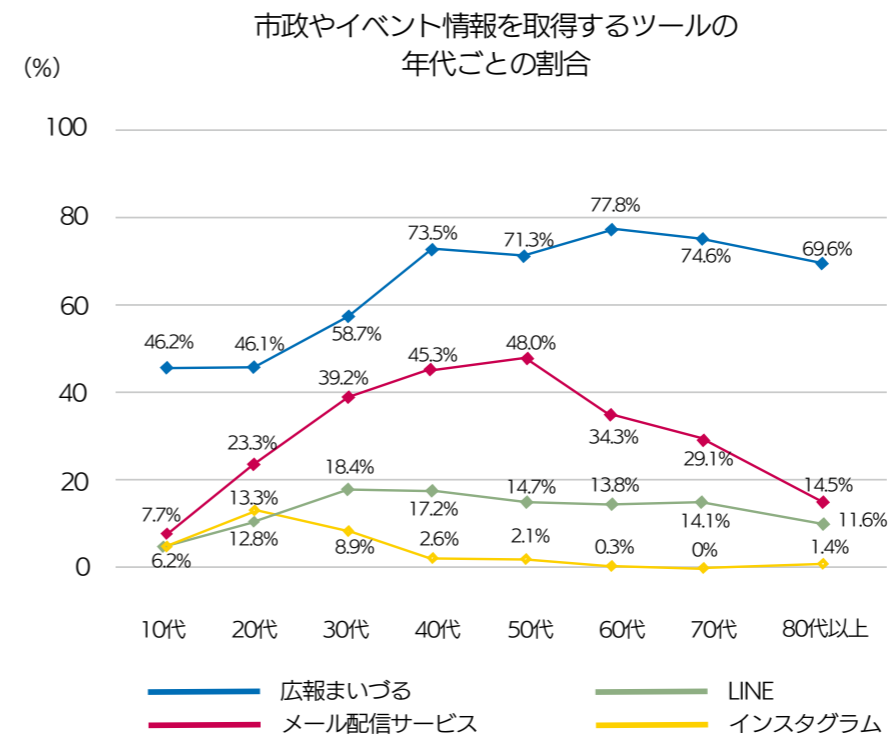


第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、戦略的な広報の推進からさまざまな発信ツールでの情報発信についてお知らせします。



SDGs未来都市

**広報まいづると今後の情報発信  
元気で魅力あるまちへ**



**さまざまなツールでの情報発信**

皆さんは普段どのような手段で情報を得ていますか。インターネットが普及し、活字離れが進む中、市政情報をより多くの人に届けるため、行政ではさまざまなツールで情報発信することが求められています。

市では現在、広報紙、ホームページ、フェイスブックやインスタグラムなどのSNS、メール配信、LINE、FM放送といったツールを使い、市内はもちろん、市外に向けても情報発信しています。

**たくさんの人に読まれる  
広報紙**

令和2年、シティブランディングプロジェクトの取り組みとして、市民アンケートを取りました。その中で、市政やイベントの情報はどこから入手しているかを聞いたところ、上の折れ線グラフから分かるように、各年代とも「広報まいづる」が他のツールより群を抜いて多いことが分かりました。高校生に限った調査でも、新聞に次いで多く、広報紙が若年層にも浸透していることが伺えます。

**広報まいづるの役割**

「広報まいづる」は1950年から発行し、今号で1038号目を迎えます。当初はタブロイド型で発行していましたが、より親しみやすい紙面となるよう2012年7月からは今の雑誌型で発行しています。

一般的に紙媒体での発信ツールはウェブと比べて視認性が高く、また綿密な取材と複数回の校正を経て発行するので信頼性が高いのが特徴です。数々のお



知らせやイベント情報を記載しているのはもちろんですが、市の予算や決算、出水期の前には防災の特集など、大切な税金の使い方や市民の皆さんの安全・安心のため時宜を得た内容を掲載しています。また、まちの歴史を深掘りした記事、子育ての情報、地域で元気に活動している人の特集など、日々が暮らしやすく、楽しんでもらえるような

内容を考えています。市民の皆さんの最も身近な情報収集手段として「住み続けたい、舞鶴に住んでよかった」と思ってもらえる広報紙づくりに取り組んでいます。

さらに最近では、インスタグラムと連携し、市民の皆さんが撮影した写真を表紙に使うなど新たな仕組みも取り入れています。

**今後の情報発信について**

広報紙は最も基本的な情報発信ツールですが、アンケート結果からも全ての人に読んでいただいているわけではありません。今年度からは、より多くの人に読んでもらえるよう配布方法をポスティングによる全戸配布に変更したことで読者は増えてきましたが、広報紙以外の発信ツールの充実も必要だと考えています。

シティブランディングプロジェクトから生まれたハッシュタグ「#ツルいい舞鶴」「#myツルいい」を活用した取り組みなど、市民の皆さん一人ひとりにも情報発信してもらおうと、よりまちの情勢に活気が出てきました。

今後は、こうした仕組みを活用しつつ、広報紙は信頼性の高い公の発信ツールとしての位置付けを堅持する中で、市民と行政がともに情報発信し、活力あるまちづくりに取り組んでいきます。

【初期の広報まいづる】  
広報まいづる第1号  
(当時は舞鶴市政だより)  
昭和25年4月15日発行



【現行の広報まいづる】  
広報まいづる第1037号  
令和4年7月1日発行



市公式Instagramはこちらから

**INTERVIEW**  
～ 高校生's EYE ～

広報まいづるには、小学6年生の時に友達と表紙に載ったことがあり、その時の広報紙は今も大切に保存しています。私が広報紙で一番見るのは何より表紙です。写真がきれいで、今年5月号の写真も好きですし、7月号も「めっちゃきれい！」と母と話していました。市のInstagramも、表紙にコードがあったのでそれで知りました。これまで読んだ中ではワクチン接種の記事が特に参考になりました。受けるかどうか迷っていたので、ワクチンの説明やどれくらいの人を受けているのかなどが載っていて、私も受ける決心がつきました。逆に道路工事とか事業の紹介、あと催し物のお知らせなどは読まないですが、全体を通しては、写真があれば目に付くから見ます。それを良いなと思ったら記事を見て、その中で気になるものであれば読んだり、あとは社会で話題になっている



東舞鶴高校2年 高井 倅 さん

こと、例えば新型コロナの状況がもっとひどかった時にはそれに関する記事を読んだりしていました。

高校生は、InstagramなどのSNSをよく使うので「今月はこんなことをアップします」というような予定をストーリーで上げてもらえたら、高校生も市のInstagramをフォローして、舞鶴についてももっと知ってくれるのかなと思います。